

前田大清水口遺跡発掘調査報告書作成支援業務委託に関する特記仕様書

1 適用

標記業務委託については、魚沼市委託契約条項及び魚沼市埋蔵文化財発掘調査業務委託標準仕様書のほか、下記特記事項を付すものとする。

2 概要

- (1) 整理主体：魚沼市教育委員会
- (2) 件 名：前田大清水口遺跡発掘調査報告書作成支援業務委託
- (3) 遺 跡 名：前田大清水口遺跡
- (4) 面 積：約 740 m²
- (5) 時 代：縄文時代中期～後期、古代 縄文時代が主
- (6) 発見遺構：掘立柱建物 3 棟（内訳：側柱建物 2 棟、総柱建物 1 棟）
土坑 6 基、不明遺構 2 基、ピット 60 基
- (7) 出土遺物：土器（縄文土器・須恵器・中・近世陶器など）石器 計 20 箱
- (8) 整理体制：発注者及び受注者は、下記の人員を配置するものとする。
 - ア 発注者が配置
 - 監督員 1 名
 - 整理担当者 監督員が兼ねる
 - イ 受注者が配置
 - 現場代理人 1 名
 - 整理調査員 整理作業に必要な人数
 - 整理作業員 整理作業に必要な人数
- (9) 履行期限：令和 7 年 2 月 28 日まで

3 業務内容

- (1) 本業務は、令和 5 年度前田大清水口遺跡発掘調査で検出された遺構や出土遺物の整理作業及び報告書作成支援業務である。受注者は、本遺跡の整理作業及び報告書作成に必要な遺構の図面・写真編集、縄文土器、石器等の出土遺物実測・トレース、写真撮影、図版作成、写真図版作成、本文執筆、挿図表作成、全体編集等を行い、発掘調査報告書のデジタルデータを作成し、整理主体である発注者に納入するものである。
- (2) 本業務は、監督員と現場代理人が協議のうえ、現場代理人が、整理調査員、整理作業員を指揮監督して行うものとする。

4 現場代理人

現場代理人は、標準仕様書に基づき選任すること。また、現場代理人にかかる費用は現場管理費に含めるものとする。

5 整理調査員（発掘調査員）

- (1) 整理調査員は、整理担当者の方針に基づき適切な発掘調査報告書を作成できる者とする。
原則として以下のいずれかの要件を満たす者とする。
 - ア 大学（4 年制）若しくは大学院で考古学を専攻した者
卒業（修了）後、発掘調査担当者又は、発掘調査員として実質 2 年以上の発掘調査経験があり、1～2 冊以上の報告書主要項目（遺構、遺物、総括等とし、調査経緯、調査経過、遺跡の立地等は含まない。以下同じ。）の執筆歴がある者。
 - イ ア以外の者

発掘調査担当者又は、発掘調査員として実質４年以上の発掘調査経験と、１冊以上の報告書主要項目の執筆歴がある者。

- (２) 整理調査員は、「７ 作業内容」に示す作業を適切に行える能力を有し、かつ整理作業員の指導を行える者とする。

6 整理作業員

整理作業員のうち半数は整理作業従事経験を有し、かつ「７ 作業内容」に示す作業を適切に行える者を配置すること。

7 作業内容

受注者が行う作業内容は、主として以下のとおりとする。なお、発注者は以下の作業を行ううえで必要な遺物・記録類を受注者に貸与する。

各工程における整理作業及び報告書作成は、平成 16 年 10 月 29 日付け文化庁『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』、(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『埋蔵文化財整理・報告書作成の手引』、文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき－整理・報告書編－』(平成 22 年度)、魚沼市埋蔵文化財調査報告書各集などに準拠して行うものとする。

(１) 基礎整理・接合・復元

基礎整理（注記・分類・仕分け）及び土器接合・復元の実施にあたっては、平成 16 年 10 月 29 日付け文化庁『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』、(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『埋蔵文化財 整理・報告書作成の手引』、文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき－整理・報告書編－』(平成 22 年度)に準拠して行うものとする。なお、土器の復元については、発注者受注者協議のうえ決定する。

(２) 報告書作成・編集

- ・報告書作成・編集にあたっては、発掘調査報告書は記録保存として残された唯一のものであることを忘れてはならない。
- ・報告書は、A 4 判とし、発掘調査報告書の体裁は、魚沼市教育委員会発行の発掘調査報告書に合わせるものとする。発掘調査報告書の質的内容は、新潟県教育委員会発行の発掘調査報告書若しくは魚沼市教育委員会発行の発掘調査報告書と同等以上でなければならない。また、周辺地域の状況、関連諸学の研究状況も十分に反映させなければならない。
- ・総ページ数、図版、写真図版のページ数は、監督員の指示によるものとする。
- ・レイアウトの決定については、監督員の承諾を得て、版下を作成すること。
- ・受注者は、監督員の指示により、遺跡周辺地形図・確認調査位置図・グリッド設定図等の図版及び表を作成しなければならない。なお、これに要した費用は受注者の負担とする。
- ・発注者は、実測図デジタルトレースデータ・掲載用写真データ及び科学分析報告書など、作業を行ううえで必要な資料を受注者に貸与する。
- ・校正（本文・図版）は、原則 3 校までとするが、結果によってはこの限りでない。

(３) 出土遺物実測・拓本・トレース

- ・実測図の作成方法は、特に指定しないが、正確かつ迅速な方法で実施すること。拓影図（拓本）は、発注者に協議のうえ取ること。実測図には個々の遺物に応じて、以下の項目を記入すること。

ア 実測番号	イ 注記
ウ 種別	エ 器種
オ 法量	カ 土器の胎土・混入物
キ 土器の内外面の色調・焼成状態	ク 石器の石材
ケ 調整・加工痕等の有無や手法	コ 遺物所見
サ 実測者名	シ 実測年月日

ス その他特記事項

- ・実測の縮尺は原寸を基本とする。これによらない場合は、事前に発注者の許可を得ること。
- ・実測の用紙は、1mm 方眼の入った長期保存に耐え得る紙を使用し、1つの遺物の実測図は原則として1枚の用紙に収めること。用紙サイズはA4判またはA3判を基本とするが、これに収まらない場合はこの限りでない。
- ・トレース図はA4判またはA3判の用紙に $S = 1 / 1$ と $S = 1 / 3$ を掲載し提出すること。これに収まらない遺物については、発注者受注者協議を行うものとする。
- ・実測図の校正は3回以内とする。校正は、遺物と実測図を対比しておこなうものとする。作業場所については、発注者受注者協議のうえ決定する。

(4) 遺物図版の作成・編集

遺物のデジタルトレース図を、遺物の特徴が一目でわかるように十分配慮して器種ごとに適切な位置に入れること。配列については、発注者と受注者で協議して行うこと。使用ソフトはAdobe社のIllustrator CC及びInDesign CCとする。線種・線の太さ・レイヤー分けは、(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『埋蔵文化財 整理・報告書作成の手引』に準拠して行うものとする。

(5) 遺構図版の作成・編集

発注者が貸与する必要な資料・実測図・デジタルデータを使用して作成すること。使用ソフトはAdobe社のIllustrator CC及びInDesign CCとする。遺構図の掲載スケール・線種・線の太さ・レイヤー分けは、(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『埋蔵文化財 整理・報告書作成の手引』に準拠して行うものとする。

(6) 遺物写真図版の作成・編集（写真撮影・加工も含む）

遺物の写真撮影はデジタルカメラ（1,000万画素以上）を使用し、1資料あたり「8 作業数量」で示す遺物について撮影する。画像サイズは、4,000Pixel×3,000Pixel以上で撮影し、遺物の質感、色調、製作方法等の特徴を表現できる大きさにすること。写真撮影にあたっては、細かな調整痕まで解像できるよう照明を調整するものとし、報告書掲載の為の色調整と発注者が指定する倍率に基づき画像の加工を行うこと。使用ソフトはAdobe社のIllustrator CC、Photoshop CC、InDesign CCとする。なお写真カラーは、CMYK形式を基本とする。

(7) 遺構写真図版の作成・編集

発注者が貸与する調査写真・遺構写真のデジタルデータを使用して作成すること。使用ソフトはAdobe社のIllustrator CC、Photoshop CC、InDesign CCとする。なお写真カラーは、CMYK形式を基本とする。

(8) 本文執筆・編集

本文執筆・編集は、発注者と受注者で協議して行うこととし、提供されたデータを組版すること。この際、使用ソフトはAdobe社のInDesign CCとする。

(9) 挿図表作成・編集

使用ソフトはAdobe社のIllustrator CC及びPhotoshop CCとし、InDesign CCを使用してレイアウトすること。発注者は、作業を行ううえで必要な資料・実測図データを受注者に貸与する。

(10) 全体編集（校正）

受注者は、上記（1）～（10）について作業を行い、発注者の校正をうけるものとする。全体校正は3回以内とする。

(11) その他

上記（1）～（11）についての詳細は、監督員と現場代理人が協議して決定するものとする。

8 作業数量

「7 作業内容」に示した作業数量は、次のとおりとする。

- | | | |
|--------------------|------|-------|
| (1) 基礎整理 注記・分類・仕分け | コンテナ | 20 箱 |
| (2) 土器接合・復元 | コンテナ | 15 箱 |
| (3) 発掘調査報告書作成・編集作業 | | |
| 本文（本文・観察表・挿図） | | 58 頁 |
| 図版・写真図版（カラー図版含む） | | 33 頁 |
| その他 | | 12 頁 |
| 総頁数 | | 103 頁 |

ページ構成（案）を参照のこと。なお、各頁数については増減する場合がある。

(4) 作業項目

出土遺物実測・トレース 一式

縄文土器 114 点、石器 34 点を中心に 図面図版 9 ページ内の枠内に掲載できる資料点数とする。

遺物図版編集	一式
遺構図版作成・編集	一式
遺物写真図版編集	一式
遺構写真図版編集	一式
本文執筆・編集	一式
挿図表作成・編集	一式
全体編集	一式
デジタルデータ作成	一式

9 遺物・記録類の管理

- (1) 受注者は、発注者が貸与した遺物・記録類について、厳重な管理体制により作業を実施すること。
- (2) 受注者は、遺物の人為的な破損及び紛失がないよう、取り扱いには十分注意すること。
- (3) 受注者は、日頃から防犯防災対策を取り、適切な管理を行うこと。

10 成果品

業務完了時に、以下の成果品を提出すること。

- (1) 発掘調査報告書
 - デジタルデータ 一式
 - ・デジタルデータはCD-ROMなどに保存したものとする。
 - ・デジタルデータを紙に出力したものを3部提出すること。
- (2) 作業日報及び作業状況写真
- (3) 発注者受注者協議のうえ、必要と認められるもの

11 その他

- (1) 記録類・遺物の受け渡し方法や各行程毎の作業確認方法などは、監督員と現場代理人が協議を行い、決定するものとする。
- (2) 成果品が、契約内容に照らして適当と認められないものについては、受注者の負担において速やかに再作業を行うものとする。
- (3) 疑義が生じた場合は、監督員と現場代理人が協議して決定するものとする。